

薬用作物(生薬)産地化推進のための行政担当者情報交換会

2020年1月29日(水)、日本漢方生薬製剤協会と、一般社団法人 全国農業改良普及支援協会が設立した薬用作物産地支援協議会により、「薬用作物(生薬)産地化推進のための行政担当者情報交換会」が開催された。

この情報交換会は、各都道府県・市町村の行政担当者を対象に、先進的な取り組みを行っている産地の紹介および意見交換を行い、薬用作物の産地化を促進することを目的としている。



会場後方には、展示コーナーが設置され、日漢協からは、漢方薬の原材料である生薬や、漢方の基本的知識に関するパネルを展示した。多くの参加者が立ち寄り、生薬の写真を撮ったり、独特の香りを確認したり、熱心な様子が見られた。

【講演】

1. 高浜町における薬用作物栽培

(福井県高浜町 産業振興課課長補佐 田原文彦氏)



【田原 文彦 氏】

薬草を含む有用植物を活用したまちづくりを目的に、さまざまなところと連携しながら栽培に取り組んでいる事例が紹介された。現在は京都の生薬問屋へ販売しており、また、薬草事業を推進することで開発された商品を売るマッチングサイトも紹介された。

2. 八峰町における生薬産地化への取組について

(秋田県八峰町 農林振興課農政係長 門脇朝哉氏)



【門脇 朝哉 氏】

生薬の種苗生産と生薬産地化を目的に町による試験栽培を繰り返し、すでにカミツレ、キキョウの出荷に至っている。その成功事例において、町による栽培実証と農家への栽培普及について具体的な取り組みが紹介された。

3. 三重県における薬用作物への取組

(三十三総研 専務取締役主席コンサルタント 伊藤公昭氏)



【伊藤 公昭 氏】

三重県における薬用作物(カノコソウ)の栽培から商品化について、地域連携事業化コーディネーターが新たな価値を創造してきた実例が示された。

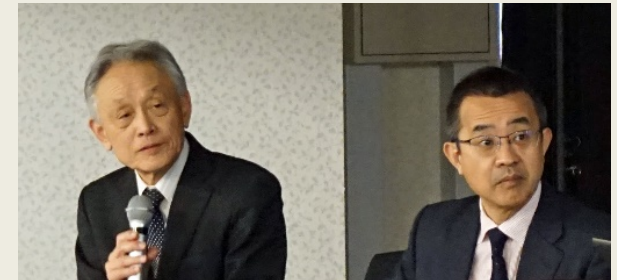
また、カノコソウの試験栽培から、「医薬品製造業許可」を取得して医薬品業界への参入を決定した企業が紹介された。

意見交換会では、農林水産省の事業説明があり、また、薬産協による産地化のパンフレットとして『薬用作物の栽培ガイド』を取り上げて、これから始める方々に活用していただきたいとのお話があった。

当日は、大勢の方が参加され、薬用作物への興味の深さが感じられた。



【農林水産省 井上 達也 氏】



【薬産協による司会】